平成 30 年度　第 3 回　大阪府立刀根山支援学校　学校運営協議会議事録

日　時　　平成 31 年 2 月 18 日（月）15:00～16:30
場　所　　本校　会議室
学校運営協議会委員（敬称略）
　委員　井村　修（大阪大学大学院人間科学研究科　教授）
　　川上　麻衣（大阪府立刀根山支援学校　保護者代表）
　　斎藤　利雄（独立行政法人国立病院機構刀根山病院　神経内科医長）
　　高畠　俊英（豊中市教育委員会児童生徒課　主幹）
　　平賀　健太郎（大阪教育大学教育学部　准教授）
　　山田　享（学校法人大阪滋慶学園　教育顧問）

１　学校長挨拶
２　協議事項
（１）平成 30 年度　学校評価（案）について
「中期的目標」
　〇少人数で授業をしている分教室が多いため、児童生徒の進度にあわせた授業を行いやすい。しかしながら、自己診断の結果を見てみると、児童生徒の興味関心は低いように感じる。児童生徒が興味関心をもって、学習に取り組めるような授業を行うための、教員の授業力向上に努めていく必要性を感じている。今後は、ICT を活用しながら、子どもの興味を惹きつけるような、体験的な授業をしていかなければならないと感じている。
　〇刀根山支援学校の災害時における対応を保護者が周知できるように、きちんと説明していきたい。
　〇保護者と会う機会の減少があるため、保護者と話す機会を逃さずに連携を図っていきたい。また、今年度は刀根山支援学校がこれまでにやってきたことの継承として、実践報告集を作成した。
　〇進路指導の情報について、部署ごとには把握はできているが、学校全体で生徒の進路情報の把握がしきれていないことが判明した。来年度は全体で共有できるようにしていきたい。
　〇ネット環境については、今年度全ての分教室に SSC（統合ネットワーク）を普及した。メリットとしては、府教委のサーバーにアクセスするため、個人情報の保護という観点でいくと、有効に使えると感じる。

（２）平成 31 年度　学校経営計画（案）について
「中期的目標」…来年度から３年間での到達目標である。

○・「切れ目のない支援」とは、一つの学校だけで簡潔するのではない。退院後もスムーズに復学ができるように支援していきたい。

・キャリア教育や進路指導については、地域校と連携して進めていけるように努めたい。入院中においても、子どもたちが安心して自分の進路を考えていくことができるようにしていきたい。

○・各機関の仕事の役割を把握し、どう連携するか考えることができる力（コーディネート力）を教員がつける必要がある。

・これまで刀根山支援学校が取り組んできたことを継承するために研究冊子の作成や、病院と連携した公開セミナーにも取り組んでいきたい。また毎年教育サミットで配布している筋ジストロフィーの冊子の内容の改定に向けて取り組んでいきたい。

・全国の病弱教育の専門性の向上のために府内外の学校と連携を図りながら努めていかなければならないと感じている。

○・行事の役割について、子どもの成長にどうつながるのかを見直し、教員一人ひとりが子どもたちの成長を考えながら取り組んでいく。

３　報告・連絡

（１）　平成 30 年度　学校教育自己診断報告

（２）　授業アンケート結果報告

児童生徒用：結果を見ると、教員との信頼関係ができているととれる。一方授業内容に関しては、「あまりあてはまらない」という回答の割合が大きかったため、教員一人ひとりの授業力向上が課題である。また、キャリア教育や、進路指導の推進の必要性を感じる。

保護者用　：昨年度と比べて「無回答」の割合が増加傾向にある。本校の取り組みをしっかりと説明できるようにしていきたい。

医療関係　：肯定的な意見が７０％を超えた。３について、教員の取り組みが医療関係者に評価されたのではないかととれる。

教職員　　：他の分教室との連携については、昨年度と比べて全般的に増加している。個別の教育支援計画と個別の指導計画についても、共通の理解をもって多くの教員が進めているととれる。

４　その他